空き家利活用コンテスト2022 最優秀賞

住宅部門

事例 01

シェアハウス楽之（たのし）

“田舎暮らし”の事始めを応援する多様性あふれるシェアハウス

1階のリビング。以前は2間続きの和室だったが、ふすまを取り払って広く明るい空間に。押入があったところには新しく窓を設け、ソファベンチを造作した。壁にはスクリーンも。シェアハウスの仲間と楽しい時間を過ごすことができる。

はじまりは、建設業を営む受賞者に入った解体依頼から。築58年、約10年間空き家だった民家。立地は智頭町の最南端にある駒帰集落で、中心街から10km以上離れた岡山県境だ。利活用の条件がいいとはいえない。しかしながら駒帰は、国道373号線に面する関西への玄関口。「ここにシェアハウスがあれば田舎暮らしの架け橋になれるのでは」とチャレンジを思い立った。

家の中でも外でもそれぞれの暮らしを楽しんでもらえるよう、1階・2階の共有スペースを充実するとともに、各個室ではプライベートな空間を確保した。改修前、2階の3分の2は封鎖されていたが、壁を壊して大工事。張り巡らされた梁や柱とにらめっこしながら、1階の天井を壊して床を下げる、梁に頭がぶつからないよう段差を付けるなどして4部屋の居室を造った。今時のバリアフリーとは程遠い造りとなったものの、この家ならではの個性的な居住空間に仕上がっている。

「智頭町や鳥取県の魅力を知ってもらうと同時に、今後ますます多様化する働き方、暮らし方の受け皿となりたい」と受賞者。創意工夫の中に、“智頭のまちづくり”への熱い思いが込められている。

皆で食事したり談笑したり、使い方いろいろ。

古いシステムキッチンを利活用。キッチンカウンターは古い家具を用いて造作、同色の塗装を施して統一感を出した。食器棚が収まっていたスペースもうまくアレンジして、キッチン家電を並べて置ける棚に。誰もが使いやすい仕様になっている。

古民家の情緒を残す玄関。土間横には1つ目の個室が。

（写真上・左下）1階に2部屋、2階に4部屋ある個室は全てフローリング、施錠＆エアコン付き。
（写真右下）2階のリビング。ここを通って各個室へ向かう。

［ DATA ］

名前	シェアハウス楽之（たのし）
所在地	八頭郡智頭町
構造	木造2階建て
築年月	昭和39年1月
改修後の用途	シェアハウス
改修期間	2021年8月～2022年3月
改修費用	約11,000,000円